

319 中央大学剣道大会

〔『法学新報』第22巻11（259）号 大正元年12月1日〕

○中央大学剣道大会 去る十月二十七日中央大学学友会にては第七回剣道大会を同大学講堂に開催したり太田部長は差支の爲め欠席せられ伊藤会長及師範中山博道、今泉来藏の二氏出席小倉延猛、吉浦宴正、梅川巳之四郎、山里忠徳、北島辰一郎、檜山義質、鈴木鉄藏の諸師も臨席せられ午前九時より沖津有喜世、佐藤八次郎の二氏を大将とし部員の紅白勝負を爲し夫れより中学の三本勝負に移り日本、海城、芝、攻玉舎、埼玉中学及師範、青山師範、成城、東京、錦城、独逸協会等の諸校より選出せられたる剣士十二組の仕合ありて午後より各専門学校選手の三本勝負に入り石坂対無念流金子は石坂の勝、水島対日本大学海老塚は水島の勝、石坂対外国語学校大川は石坂^坂の勝、千葉対農科

大学阿部は阿部の勝、佐々対農科大学首藤は首藤の勝、奥田対農科大学国安は奥田の勝、明治大学寒河江対日本大学藤本は藤本の勝、明治大学丹羽对有信館杉本は引分、石渡対水産原口は石渡の勝、明治大学笠原对有信館桜井は笠原の勝、新井対水産小和田は引分、高等学校木島対農科大学篠崎は篠崎の勝、水島対明治大学田島は田島の勝、野村対外来米川は野村の勝、高等学校平井对有信館須賀は平井の勝、佐々対水産池尻は佐々の勝、新井対美術学校棚田は棚田の勝、木村対東洋協会岡本は引分、野村対東洋協会森川は森川の勝、高野対錦町警察署高橋は引分、木村対美術学校蓮花は木村の勝、有信館寛対錦町警察署清水は寛の勝、農科大学杉沼対東洋協会中西は杉沼の勝、高野対早稲田大学山内は左り利き二刀の山内の為め高野屢危地に陥りたるも辛ふして面を得再戦小刀見事に胴を得られ三戦胴を得て高野の勝に帰し美阪对有信館山田は美阪面を得しも横面及びひ胴を得られて美阪の敗に帰し高等学校大島対高等商業学校小森は大島面を得しも面小手を得られて小森の勝となり佐藤対市毛は高等商業学校中の猛者なり精悍なる佐藤も立会早早体当りを蒙り敢なく顛倒したるも奮戦苦闘の末面及小手を得て其勝に帰し武藤対早稲田大学榎村は武藤当日の出来甚た面白からす面及横面を得られて愧(アヤ)くも敗を取り無念流の矢部対錦町警察署の近藤は面及小手を得られて矢部の敗、沖津対錦町警察署重戸は元来互角の勝負にて一勝一負劇戦數十合面及小手を得て重戸の勝に帰し、相浦対早稲田大学江畑は平常の技量に似す胴及小手を得られて敢なく江畑の敗に帰したるは惜みても亦余りあり飯田対外

国語学校大島は胴及び小手を得て大島の勝、沖津対帝国大学樋口は胴及び面を得て沖津の勝、嘗て我校に於て雄を称したる守屋剛二は今回渡清の途次立寄りたるにより有信館の牧と立会ひ一勝一負にして引分、早稲田大学市原真次対錦町警察署内山千太郎は孰れも一方の大將なれば目覚しき劇戦あり勝負決せずして引分、最後に在帝国大学法科大学水野秀対農商務省在勤一番ヶ瀬倉次は孰れも我校の学友にして剣道界の俊才なるか極めて稀なる立会なるを以て満場拍手を以て之を迎へ一番ヶ瀬は例により隼の如く右より左より其責め立つる早技殆んど眩する許りなれとも水野は屹然時立して毫しも噪かず恰も猛虎隅を負ふて立つか如し如何なる隙やありけん水野猛然として得意の体当りを試みしか一番ヶ瀬立直りて突撃を試み其猛烈なる戦闘に満場呆然たる有様なりし遂に一勝一負にして引分けたるか近来絶てなき所の壯觀なりし例により伊藤会長の挨拶、中山師範対中野讓の棒の形等あり会長より勝者に賞品を授与して当日の大会を終了したり